

## 雀よ、何処へ行ったのか

最近、雀の姿を見かけることがほとんどありません。どうしたのかなと思っていますと、別に私が住んでいる周辺だけではなくて、全国的に雀が減っているようです。

立教大学と岩手医科大学の研究グループがまとめたところによると、過去20年間で約6割も減ったということですから、驚くと同時に不気味な感じがします。

雀の子 そこのけそこのけ お馬が通る、という小林一茶の句を持ち出すまでもなく、雀は、私たちの生活の直ぐそばに何時もおりました。

我が家の狭い庭にも鳥の餌台がありますが、以前は餌台にお米やりんごを載せておくと、「ちゅんちゅん」と鳴きながら何羽もの雀が寄ってきたものです。それが今では、全く寄り付きもしません。

雀の生息地は、都市や農村など人が住み始めたところに居着き、人がいなくなると見られなくなるといわれています。それだけ人間との関わりが深い雀ですが、一体どこへ行ってしまったのでしょうか。

雀は雑食性で、何でも食べます。農家にとっては、秋になると折角実った稲のもみ米を食べてしまう困った雀ですが、春には害虫や雑草の種を食べてくれる益鳥でもあります。このため、稲作に対する害虫の被害を心配する農家の方も、いらっしゃいます。

一体何故、雀はここまで激減してしまったのでしょうか。

研究者の方々の説によると、住宅の構造が変化し、屋根瓦や建物の隙間に巣作りをすることが難しくなってきたこと、コンバインの普及で、餌となる落ちモミが減ったこと、都市部での空き地や草原が減ったこと、減反によって、水田の面積が減ったことなど、雀を取り巻く生活環境が大きく変化してきたことが考えられるとしていますが、はっきりとしたことは分かっていません。

ただ、2006年には、全道で一斉に雀が姿を消したという出来事があった

ように、環境の変化ということだけでは片付けられない不可解さを感じます。

雀には分からないことが沢山あり、例えば雀の寿命も良く分かっていません。一説では、1年前後ともいわれています。「ふくら雀」という言葉があるように、愛くるしい姿の雀たちですが、厳しい生活環境の中で、はかない一生を送っているようです。

余りにも身近すぎて、気付かぬ内に雀たちは、姿を消してしまいました。これは、人間に対する、何かの警告のようにも感じます。

雀までが絶滅危惧種になっては大変なことです（これは、心配のしすぎかも知れませんが）ので、早急に原因究明が進むことを、期待したいと思います。

（塾頭 吉田 洋一）